

編集後記

待望の YMJ27(2) が発刊されました。刊行に至るまでの久保田健夫編集委員長のご尽力に敬意を表します。

本号は総説1編, 症例報告1編, 原著論文3編で, 邦文は3編, 英文は2編での構成です。いずれも質の高い内容で YMJ の質の向上に貢献するものになっていると思います。大学医学部の刊行する学術誌は, その大学の臨床, 研究, 教育の質を表現するものに他ならないことは言うまでもありません。そういった観点から YMJ の質を担保してゆくのは大学人である私たち各人の努力にかかっています。しかし, 他大学でも同じような傾向があるようですが, high journal に投稿して reject された原著論文を再投稿するケースが多いのが現状かと思えます。その対策として, K 大学は博士課程修了時の原著論文を原則, 自大学の学術誌に投稿することになっていると聞いています。さらにそのような施策を可能にするために, 査読に関する規定をしっかりと定め, 査読期間も2週間程度に設定されているため, 短期間の間に頻回に著者との間でやり取りがなされ, その過程で投稿論文の質もさらに向上するとのことでした。

必ずしもまねる必要はないかもしれませんが, 私たちの YMJ にも少なくとも査読に関しては同じようなシステム作りが必要かもしれませんし, 少なくとも査読の際には何週間も放っておくなどということがあってはならないと思います。また, 若い研究者, 臨床家の投稿が少ないように思いますが, このことが YMJ の投稿数が少ない原因かもしれません。特進コースの学生も含めた若い方の研究論文であれば, 真の完成までには少し時間が必要かもしれません。そのような場合には新発見のエッセンスを投稿していただく「速報」といったような部分があってもよいかもしれません。

臨床研究の投稿も重要で, これは, 臨床各々がどのような分野に主眼を置いているか, またどのような分野を専門にしているかが正確に把握できますので, 臨床各科間の情報になりますし, 学生たちにとっても, 自らが属する大学の重要な情報源となるでしょう。また, 必ずしも英文でなくてよいので, 各臨床科から症例報告をしていただくのもよいと思います。症例報告は指導者が厳格に指導すれば, 若い方の論文作成の技術を磨くには最適の方法です。

YMJ は山梨大学医学部の唯一の学術誌です。投稿数の増加を図ることと, 質を高めることに学生も含めた山梨大学医学部に籍を置くものすべてが全力を尽くすべきであろうと思います。次号がさらに充実したものになるように編集委員全員がさらに努力を重ねたいと思います。皆様にも更なるご理解とご協力をお願い申し上げます。

(藤井秀樹)

山梨医科学雑誌 第27巻 第2号

平成25年2月18日

編集・発行 山梨大学医学会

〒409-3898 山梨県中央市下河東1110番地

山梨大学内 Tel. 055-273-1111 (内) 2242

印刷所 株式会社 東京プレス

〒161-0033 東京都新宿区下落合3-12-18 3F

Tel. 03-5982-9291